

2014.06

HATOBUKI

春号

Vol.7

JCHO可児とうのう病院の「いま」を伝える

はとぶき

特集

内視鏡の進化で広がる消化器内科の領域

内科で治すがん

はとぶきホットライン VOL.6

新しいナースコールを導入！
より詳しく、よりスピーディーに

地域医療機関と可児とうのう病院を結ぶ懸け橋

医療連携室だより VOL.7

奥野医院／牛丸内科



特集

内視鏡で治すがん

内視鏡の進化で広がる消化器内科の領域



多くの人ががんの治療で想像するのは、臓器の大部分を摘出する外科手術ではないだろうか。しかし、胃や食道、大腸など、一部のがんは、進行情合によって粘膜だけ削ぎ落とすことで治療することもできる。患者の負担を最小に留めるべく進化する消化器内科のいまを伝える。

内視鏡手術の操作は手元のダイヤルにて行う

岐阜社会保険病院から「JCHO可児とうのう病院」へ名称が変わっても、地域を支え、愛される病院を目指す

4月1日をもって、独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）可児とうのう病院が発足しました。

当院は昭和21年5月に健康保険制度の普及を目的に、健康保険土田病院という名称で開設しました。その後、健康保険東濃病院、岐阜社会保険病院と名を変えながら、地域医療のために全力を尽くしてきました。近年、社会保険庁の諸問題のありを受け、社会保険病院グループ自体の存続が問題になった際には、地域の皆さまにご心配をおかけしたことを思います。新機構へ移行したことで、そのようなご心配を払しょくできたのではないのでしょうか。

JCHOは5事業（救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児医療）や5疾病（がん、脳



独立行政法人
地域医療機能推進機構
可児とうのう病院
院長 岸田 喜彦

卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、神経疾患、リハビリテーションのほか、地域において必要とされる医療と介護を提供することを目的に発足した独立行政法人です。全国57の病院と連携し、国内の地域医療と地域包括ケアの要も力を注いでいきます。

名称は変わりましたが、地域を支え地域住民の方々に愛される病院を目指す姿勢が変わることはありません。引き続き、努力を重ねてまいりますので、皆さまのご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

JCHO GROUP

地域医療機能推進機構の関連病院は全国57施設。地域により良い医療を提供するため、緊密に協力し合っています。



可児とうのう病院

がん治療を変えた 内視鏡による手術

可児とうのう病院消化器内科の清水達治診療部長は、もとは神経内科医を志望していたという。志望を変更したのは、患者を自分の手で治したいという思いからだ。当時、神経内科の患者に完治はありませんでした。リハビリなどで改善させることが主。私は患者を治したかった。消化器内科なら、それができると思っていました」。

消化器内科では投薬などによってさまざまな疾患を治療することができた。しかし、清水部長が医師になった当時、病変を見つけても外科に託さなければならなかった病がある。日本人の死因第一位である「がん」だ。病を治したいという思いをもつ清水部長にとって、悔しさを募らせる日々が続いた。

そんな状況が変わったのは1991年頃。粘膜より下層に到達しておらず、転移している可能性が低い腫瘍をEMR(内視鏡的粘膜切除術)という方法で治療できるようになった。「内科でがんを治せるといって希望が叶いました」と清水部長は話す。EMRは腫瘍を金属製の輪で縛り、電流を流して焼き切る方法だ。しかし、患部が盛り上がり、直径2cmの輪に入る形。大きさをとらえ、穿孔の危険があり適用できない手術だった。「せつかく早く見つかっても、条件が一

致していなければ外科に託すしかありません。輪からたった5mmはみ出しただけで、胃を切除したこともあります」と清水部長はいう。

1996年、EMRに代わる新技術として、ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)が登場。2003年頃、治療法として確立し、メーカーから医療機器が発売されたとき、清水部長はESDを実施している国立がんセンターで研修を受けた。「今まで行ってきた治療はなんだったんだと衝撃を受けました」と当時を振り返る。すぐに病院に医療機器の導入を進言。可児とうのう病院はいち早くESDを取り入れ、消化器医療の充実を図った。

医療機器の進化で 患者の負担を軽減

ESDに使用する機器は、簡単にいうと内視鏡先端部から出せるほど小さな電気メス。まず、病変の周囲に印をつけ、その下にヒアルロン酸を注入し病変を持ち上げる。持ち上がった部分の粘膜をはがすように切っていく。深く切りすぎて臓器に穴が空いてしまうことを防ぐため、先端をセラミックチップで加工。EMRと違い、病変の大きさや形にとらわれず、自由に切ることでできるようになった。可児とうのう病院では12cmほどの大きさの粘膜を切断することがあ

る。20〜30cmの粘膜切断についても、他の病院で症例があるという。

手術にかかる時間も大幅に減り、最短23分ほどで手術を終えたことがあるそうだ。長い人でも2〜3時間で終わり、患者の負担を大幅に減らすことができた。「機器も進化しています。切るとすぐに、出血を止めるために焼く。これを自動的にできるようにしました。出血が多い時に、患部を確認するための洗浄と、止血が同時に行えるようになったのもありがたいです」。小型化し、柔らかくなったことも、患者の負担を減らしている。昔の機器は太くて硬かったので、口からだと苦しいという患者が多かった。また、大腸のカメラを入れた時に強烈な痛みを感じ

ようになった。「自分の目で見て、診断できる。以前より病変を見逃すことが減るでしょう」と清水部長はうれしそうに話した。

定期的な診断が 医療の選択肢を生む

清水部長に、がんの自覚症状について尋ねた。消化器内科で手術するがんは、食道、胃、大腸など。例えば、食道がんは、食べた時につかえたり、熱いものを食べた時にヒリヒリしたりするのなら、可能性があるという。胃は腹痛や体重減少が自覚症状だが、ESDで対処できるような段階で、がんを自覚することは難しいと話す。

「初期の頃は痛みもありません。がん検診などで偶然見つかることがほとんど」と清水部長。また、ピロリ菌のキャリアは胃がんを発病しやすいことがWHOから発信されている。ピロリ菌は胃が未熟な子どもが感染しやすい。衛生環境



消化器内科のスタッフ。連携を取りやすいように、普段からコミュニケーションを欠かさない

が発達した現代は、感染者が減っているが安心できない。ピロリ菌のキャリアかどうかは、胃カメラのほか、便や血液などでも診断可能。治療できるので、早めに検査しておきたい。

「ピロリ菌の検査の時に、腫瘍が見つかることも少なくありません。定期的な検査が早期発見の鍵です」と清水部長。ESDを受けるか、外科手術を受けるかは患者の意思に委ねられるが、選択肢を持てるのは転移の可能性が少ない早期発見時のみ。可児とうのう病院でも、選べる人はほとんどESDを受けるという。その数は年間33例。なかには外科による手術を追加する人もいる。

「粘膜を剥離したら、病変が検査結果以上に進行していた。また、臓器を穿孔してしまう可能性もゼロではありません。そのような場合、すぐに外科手術を施せるよう、病院内で連携を深めています」。現在、可児とうのう病院には3人の消化器内科医と7人の外科医がいる。看護師などのスタッフを含めて、皆の思いはただ一つだ。「できる限り、患者の負担を軽減して命を救いたい」。そのために、一致団結して向き合っている。



消化器内科 清水達治診療部長



内視鏡の先端部。診断する場所や状況に応じて使い分ける。このほかに、小腸を診断するためのカプセル内視鏡もある

て、検査を敬遠する人も多くいたが、細くてもよわらかい内視鏡が開発され、大腸の検査でも痛みが軽減した。昨年、可児とうのう病院では、多くの光を取り入れることができる新型の内視鏡を導入。高い画質で粘膜の模様や凹凸も薬品に頼らず診察できる



開院した当時から通う高齢者が多く、家族ぐるみの通院も少なくないそうです



奥野医院

住所 可児市下切3808-1 **P有**
電話 0574-62-7501
診療科目 内科 呼吸器科
 小児科

休診日 水曜日午後・土曜日午後・日曜日・祝日

診察時間	曜日	月	火	水	木	金	土	日祝
9:00~12:00		○	○	○	○	○	○	/
16:00~19:00		○	○	/	○	○	/	/

常に患者さん
 のために
 なることを
 考えています



奥野嘉也院長

VOL.7

地域医療機関と 可児とうのう病院を結ぶ懸け橋 医療連携室だより

1977年に開院した奥野医院。当時、この地域に医師がいなかったそう、母の知人に頼まれ、土岐市から移ってきました。暗闇のなか、リヤカーで往診するなど患者のことを第一に考えた姿勢は多くの人に親しまれています。「私たちにできるのは、あくまでも治療の助け。しっかりと自己管理してほしい」と奥野嘉也院長。その言葉には、患者への思いやりが込められていました。



地域医療を支え続けてきた牛丸内科。親身にアドバイスしています



牛丸内科

住所 可児市下恵土5830 **P有**
電話 0574-63-1611
診療科目 内科
 胃腸内科

休診日 木曜日午後・土曜日午後・日曜日・祝日

診察時間	曜日	月	火	水	木	金	土	日祝
9:00~12:00		○	○	○	○	○	○	/
16:00~19:00		○	○	/	○	○	/	/

健康は生活
 習慣が大切。
 日頃から気
 を付けてく
 ださい



牛丸泰久院長

可児とうのう病院は、岐阜社会保険病院に引き続き地域の医療連携を重視。かかりつけ医との関係を深め、より充実した地域医療を提供できるようにしています。今号は、そのなかから「奥野医院」と「牛丸内科」を紹介。ともに、30年以上地域に密着して、皆さんの健康を見守っている医院です。



ナースステーションを離れていても、PHSで対応可能に

新しいナースコールを導入！ より詳しく、よりスピーディーに

「可児とうのう病院」として新たなスタートを切った現在、患者の負担を減らし、スムーズに意思疎通ができるように、新しいナースコールを導入しました。

患者がサポートを必要とする時、スムーズな看護師への連絡を助けるナースコール。急に症状が悪化した時やトイレに行きたい時など、さまざまな場面で活躍します。

今年4月、可児とうのう病院では、ナースコールのシステムをリニューアルしました。最も大きな特長は、コールボタンを押すと直接看護師がもつPHSに連絡できるようになったこと。「担当の看護師が応答できない場合、すぐに他の看護師に繋がります。おかげで情報伝達がスムーズになりました」と看護師たちは口を揃えます。また、電子カルテとも連動しており、PHSでも患者の情報を確認できるようになりました。以前よりクリアに聞こえるようになったことも、看護師と患者ともに喜ばれています。

患者が使う子機も利便性が上がりました。これまで1つしかなかったボタンが3つに増え、トイレや点滴の時に、口頭で連絡しなくても伝わるようになりました。患者は恥ずかしがることなく伝えられ、看護師も何のために呼ばれているのかわかりやすい。音声もクリアになり、患者は今までよりストレスなく治療に専念できます。

ほかに、看護師同士の連携などにも役立つそうです。可児とうのう病院は患者のことを第一に考え、今後もより充実した体制がとれるようにしていきます。

これまでのナースコール

- 患者の名前を書き込んだボードにランプが点灯
- 患者情報の確認はナースステーションのみ
- ナースコールのボタンが1つしかない



看護師がもつPHS。看護師同士で連絡を取り合うことも

新しいナースコール

- ディスプレイ上に見やすくポップアップ。電子カルテとも連動。
- PHSを用い、移動中でも確認できるように
- 通常の呼び出しとトイレ、点滴の3つのボタンがある



病室ネームプレートもデジタル化。普段は部屋番号と写真を表示し、コール時はすぐに名前を確認できます



新しい子機には3つのボタンがあり、目的に応じて連絡できます

■ 外来診療担当表 平成 26 年 6 月 1 日現在

診療科		月	火	水	木	金	
内科	初診	岩田 敬和	吉田 均	横内 一彦	越後谷 雄一	伊藤 貴彦	
	2診 (消化器)	渡邊 久倫	清水 達治	印藤 敏彦	清水 達治	印藤 敏彦	
					9診 渡邊 久倫		
	3診	(循環器)	山田 清康	岩田 敬和	山田 清康	山田 清康	河村 吉宏
			横内 一彦	上木 裕介	林 尋之	森田 純生	横内 一彦
	4診		林 尋之 13:00~				
	5診 (呼吸器)		各務 智彦		伊藤 亮太		
	6診 (神経内科)	土方 靖浩	今井 和憲		小池 春樹	横井 聡	
	7診	(血液)	吉田 均	伊藤 貴彦	吉田 均	西山 誉大	
		(腎臓)				浅野 靖之 13:30~	
(総合診療)						越後谷 雄一 13:00~	
8診 (糖尿病・内分泌)	池庭 誠	石黒 俊明	石黒 俊明		高槻 健介		
	専門外来 (予約制)				粕谷 志郎 13:00~		
外科	1診	瀬古 浩	太田 俊介	瀬古 浩	太田 俊介	児玉 章朗 (血管外科)	
	2診	池山 隆	大森 健治	大森 健治	池山 隆	乳腺外来 10:00~12:00	
	3診	西村 廣大	岸田 喜彦	西村 廣大	山谷 千尋 (呼吸器外科)	岸田 喜彦	
	形成外科 (予約制)		高成 啓介 1:3-5週 14:00~				
	小児外科 (予約制)		岸田 喜彦 14:00~				
整形外科	1診	高松 晃	小早川 知範	渡部 達生	北村 暁子	杉浦 洋	
	2診	中野 健二			中野 健二		
	3診	新城 龍一 (背椎)	岩月 克之 (手外科)	幸島 寛	吉岡 裕 (リウマチ)	幸島 寛	
	午後					川崎 雅史 4週 14:00~16:00(夜間)	
泌尿器科	1診	青木 重之	山田 芳彰	青木 重之	原 浩司	山田 芳彰	
	2診	小林 郁生	原 浩司	全並 賢二			
小児科	1診	金山 恵子	月舘 幸一	月舘 幸一	月舘 幸一	金山 恵子	
	2診	月舘 幸一				月舘 幸一	
	専門外来 (午後 予約制)	月舘 幸一 (慢性疾患)	横井 摂理 2-4週 (神経)	長谷川 誠一 1週 (小児循環器)	月舘 幸一 (慢性疾患)		
耳鼻咽喉科	1診	平野 光芳	平野 光芳	平野 光芳	平野 光芳	平野 光芳	
	2診	櫻井 一生			田邊 陽介		
婦人科	1診	片山 宣	津田 弘之	眞鍋 てるみ	中原 辰夫	片山 宣	
皮膚科	1診	代務 2-4週				稲葉 由季 9:00~11:30(完全予約)	
脳神経外科	1診		百田 洋之				
眼科	1診		清水 裕司	清水 裕司	土井 浩史	清水 裕司	
内視鏡(カメラ)	内視鏡室	清水 達治 印藤 敏彦	印藤 敏彦 渡邊 久倫	清水 達治 渡邊 久倫	印藤 敏彦	渡邊 久倫	

□ 外来受付時間 ●初診 8:30~11:30 ●再診 8:30~12:00 ○休診日 土・日・祝日・年末年始

編集後記

可見とうの病院になって初めてお届けする「はとぶき」が、大変遅くなってしまったことをお詫び申し上げます。発行が遅れたことにお叱りを受けながらも、はとぶきを楽しみにしてくださる方が、思いのほかたくさんいてくださることを知り、非常にうれしく感じました。今後とも可見とうの病院とともに歩むはとぶきを、ご愛読のほどよろしく願い申し上げます。